

みなさん、こんにちは。

節分、立春と春と少しずつ近づいています。久しぶりの寒波で雪の便りも聞こえてきました。

1月4日に始まった新春特別展「昭和なつかし博覧会」の前期の部が終了しました。

## 1. 新春特別展「昭和なつかし博覧会」 前期の部 15,000人超の観覧者

期間中、15,000人を超える人が訪れた「昭和なつかし博覧会」前期の部が盛況の内に終了しました。

2階ギャラリーに展示された昭和30～40年代の明石を写した写真の前で「ここは だった。子どもの頃よく遊んでた」「あそこは さんの家で、大きな桜の木があったのよ」と家族や友人と懐かしい話に花を咲かせる人たち。「制服で登校しているこの写真は、娘が小学生のときのものです。娘の同級生が教えてくれたんですよ。何だかうれしいですね」と70代の女性。

多くの方が遠い日の記憶を探り出し、実物資料を前に話が弾んだようです。おじいさん・おばあさん、お父さん・お母さん、子どもたちと三世代に渡って楽しめる展覧会となりました。



お手玉や糸電話で遊ぶ



なつかしの写真



昭和42・43年の映像も大好評

2月6日(火)からは会場が1階のみになり、規模を縮小して後期の部が始まります。復元フォトモといくつかのお店ゾーンは1階ロビーに移設予定です。

## 2. ワークショップ「はた織り体験(コースター作り)」

2月4日(土) 11:00からは、さおり織りのはた織り機を使ってコースター作りのワークショップを開きました。開始前からたくさんの方が列を作るほど盛況で、色とりどりの糸の中から好みの糸を選び、ボランティアさんからはた織り機の使い方の説明を受けて、足と手を動かしながらトントンとコースターを織っていきました。



だんだん慣れてきたよ



シャトルでよこ糸を通し、トントン



織りあがる色とりどりのコースター

初めて参加した藤原新太くん(中崎小6年)は「慣れたらうまくできたので、楽しかった。家で使います」と話し、妹の美南さん(同3年)は「家にもはた織り機がほしい。今度は服を作りたい」とお母さんに話していました。

たて糸によこ糸を右左から通して織り上げるという手作業はとっても美しく、トントンという音にも手作り感があります。またひと踏みごとにたて糸が上下する織り機の動きも機能美があります。古来より、日本だけではなく世界各地で糸を紡ぎ、布を織っていた人々の営みには、「もの作りの喜び」があったのでしょうか。